

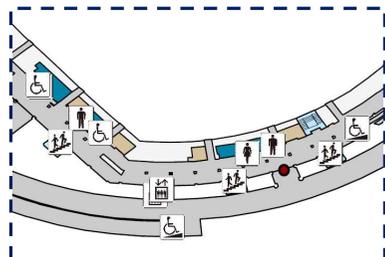
東京2020大会に向けた屋内電子地図の公開

- 国土交通省の「高精度測位社会プロジェクト」において実施した実証実験の成果である横浜国際総合競技場（日産スタジアム）の屋内電子地図を、平成31年1月から**G空間情報センター**※1にて公開開始。
- 国土地理院の**標準仕様**※2に基づき作成された、**国内最大級の競技場の屋内地図**。
- 「誰でも」「自由に」「無料で」屋内地図をダウンロードすることができ、**多様な民間サービスで活用が可能**。

G空間情報センター

横浜国際総合競技場屋内地図オープンデータ概要

- 国土地理院の標準仕様に基づき作成された、国内最大級の競技場の屋内電子地図。
- サービスの基盤となる屋内電子地図として、スタンドを含む競技場の各階層について、通路や階段、トイレ等のデータを整備。
- 地図データとあわせ、通路の段差や勾配等を含む屋内ネットワークデータも公開。

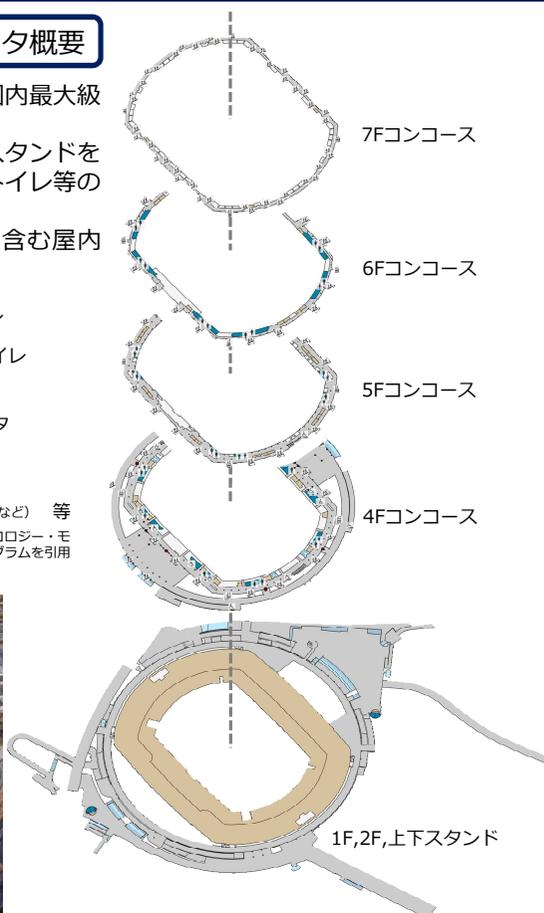


4Fコンコース拡大図

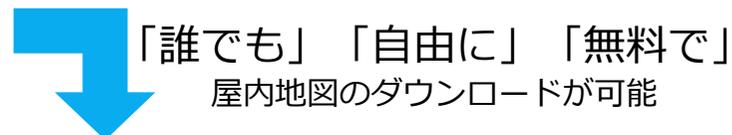
- トイレル
 - 多機能トイレ
 - 階段
 - エレベータ
 - スロープ
 - 物理的な空間 (部屋の範囲など) 等
- ※公益財団法人交通エロロジー・モビリティ財団のピクトグラムを引用



地図整備範囲



公開した屋内電子地図 (GeoPDF)



多様な民間サービスにおける活用



- 今回公開する屋内地図オープンデータを活用し、民間事業者等により様々なアプリケーションの開発が可能。
- 現在地を測定し、地図上に表示するとともに、目的地までのルートを検索、段差を回避したバリアフリールートの検索も可能。



期待される屋内電子地図の活用例 (イメージ)

※1 平成28年に稼働が開始された産学官の地理空間情報を扱うプラットフォーム。官民問わず様々な主体により整備・提供される多様な地理空間情報を集約し、利用者がワンストップで検索・ダウンロードし利用することが可能。

※2 「階層別屋内地理空間情報データ仕様書 (案)」 (平成30年3月)

- 2020東京オリ・パラを契機に、屋内や地下空間を含めた屋内外シームレスなナビゲーションを実現するため、先導的なモデルとして屋内電子地図・測位環境を整備し、実証実験を実施。
- 民間事業者等による様々なサービスが実現できる環境づくりを推進。

▼ 空間情報インフラ(屋内電子地図、測位環境)の整備

- 実証実験エリア(東京駅周辺、成田空港等)において屋内電子地図を作成、測位機器(ビーコン)を設置
 - 連携業務※において階層別屋内地図の標準仕様書を策定
 - 設置したビーコンはパブリックタグ※に登録
- ※国土地理院業務
- 実証を通じ、屋内測位手法の実現可能性検証、屋内外シームレス測位の技術的検証、屋内測位環境構築ガイドライン(骨子案)を作成

▼ Android、iOS端末によるナビゲーションアプリの試作・サービス実証

- 車いす利用者に向け段差のない/少ないルートのナビゲーション、日本語版・英語版の試作
- アプリストアで一般公開を行うとともに、被験者に現地で実際に使用してもらい、屋内位置情報サービスの評価を実施
- 民間のアプリベンダーなどに実験環境を公開し、屋内電子地図・測位環境等の評価を実施
(平成28年度11団体、平成29年度8団体が参加)



サービス実証箇所と実証アプリの画面



段差情報を踏まえたナビゲーション実証



実証実験で設置したビーコン(例)

- 屋内での位置情報を活用した多様な民間サービスの実現に向け、屋内電子地図等の整備・流通の推進のため、「G空間情報センター」を中核として位置付け、施設管理者や地図調整業、サービス事業者などから構成されるプラットフォームを構築。
- 産学官連携の下、実証実験箇所以外についても、素材データの収集・加工、屋内電子地図の利活用等を推進。

